

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について

妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ（2020/02/13 更新）

日本産婦人科感染症学会

令和 2 年 2 月 1 日 第 1 版

令和 2 年 2 月 12 日 第 2 版

令和 2 年 2 月 13 日 第 3 版

新型コロナウイルスとは？

2019 年 12 月 30 日に中国保健機関が公表した湖北省の武漢の「原因不明の肺炎」は、翌 2020 年 1 月 7 日には原因が新種のコロナウイルス（2019-nCoV）と特定され、遺伝子も同定されました。WHO は 2 月 11 日、本ウイルスによって引き起こされる疾患名を COVID-19、国際ウイルス命名委員会はウイルス名を *severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2)* と決定しました。当初は動物からヒトへの感染のみと考えられていましたが、武漢市内でヒト-ヒト感染が報告され、2 月 11 日の時点における中国政府の公式発表では、同国内患者 47,708 例、死亡 1,017 例としています（致死率 2.2%）。患者数は依然増加していますが、増加率は鈍化してきており、今後数週間以内に減少してゆく可能性があります。ただ、湖南省以外の中国全土とアジア諸国や欧米にも広がっており楽観はできません。中国外では 395 例、死亡は 1 例（致死 0.3%）のみです。1 月 31 日、WHO は国際的な公衆衛生上の緊急事態を宣言し、わが国でも湖北省からの飛行機乗り入れ禁止、中国への旅行自粛などの方針が打ち出されています。わが国における 2 月 10 日厚労省による感染者は 26 人ですが、この他に横浜港で検疫中のクルーズ船内における感染者が 70 人としています。国内の感染者 26 人は武漢からの帰国や感染者との接触歴など感染ルートが判明しており、現時点では広く国内発生が生じているとは言えない段階です。ただ、軽症者や無症候感染者が少なくないことから今後国内発生が増加してゆく可能性があります。

コロナウイルスとは、脂質の膜であるエンベロープに覆われた一本鎖 (+) RNA ウイルスで、普通感冒を起こす 4 種類のウイルス HCoV-229E、HCoV-OC43、HCoV-NL63、HCoV-HKU1 に加えて、2003 年に流行した重症急性呼吸器症候群（Severe Acute Respiratory Syndrome, SARS）の病原体 SARS-CoV、2012 年に流行した中東呼吸器症候群（Middle East Respiratory Syndrome, MERS）の MERS-CoV の 6 種類が知られています。今回のウイルスはこれら過去に報告されたウイルスとは遺伝子構造が異なっておりコウモリやヘビなどの動物からヒトへの感染性を獲得し、さらにヒトからヒトへの感染性を獲得したものと考えられます。いずれのウイルスも有効なワクチンや抗ウイルス薬はありません。

妊産婦、妊娠を希望する方へのアドバイス

2009年の新型H1N1インフルエンザパンデミックでは妊婦における重症化や死亡率の増加が報告され、2016年のジカ熱の流行では妊娠中の感染により小頭症など重篤な児の先天性障害をきたすことが報告されています。2月12日付のLancetの報告では、武漢市内で妊娠後期にCOVID-19に罹患した妊婦9例の解析で経過や重症度は非妊婦と変わらず、子宮内感染は見られなかったとしています¹。しかし、一般的に、妊婦さんの肺炎は横隔膜が持ち上がるために換気が抑制され、またうっ血しやすいことから重症化する可能性があります。妊婦さんは人混みを避ける、こまめに手洗いするなどの注意が必要です。人込みに出る場合は飛沫感染を防ぐために可能であればマスクをかけることが望ましいのですが、マスクの有効性は確認されていません。糞便中にもウイルスが排出されるという報告がありますので、トイレに入った後や食事の前には必ず石鹸で手を洗ってください。今後流行が拡大するようであれば、公共の場所でATMなどのタッチパネルに触れた後や、電車の吊革、手すりなどに触れた後も手洗いやアルコール消毒を心掛ける必要があります。また、医療機関にはコロナウイルス感染以外にも、インフルエンザをはじめとする感染症の患者さんが来院しますので、日本産婦人科感染症学会では妊婦健診と発熱外来、旅行者外来などの待合室や動線の分離、呼吸器症状のある方へのマスク着用を提唱しています。

身近にできる予防

繰り返しになりますが外出後や食事前などこまめに流水と石鹸で手洗いをしてください。このウイルスにはアルコールなどの消毒薬（アルコールスプレーやアルコールジェルなど）が有効です。発熱や咳などの症状がある人との不必要な接触は避けましょう。薬局や薬店（ドラッグストア）などで購入できるマスク（サージカルマスク）は飛沫感染の予防の有効性は確認されていません。マスクをすることで、手指を不用意に口や鼻にもっていかないという効果がありますが、空気中のウイルス粒子は花粉や細菌に比べてはるかに小さく、またマスクの周辺から入り込むことがありますので過信は禁物です。マスクをかけていても鼻を出したり、口のまわりを開けたりすると何の意味もありません。マスクは使い捨てで1日に数回取り換えてください。市販のマスクが入手できない場合はガーゼ等の手作りマスクでも構いません。マスクを外す時には、マスクの紐をもって着脱し、手を汚さないようにしてください。ただし、WHOは一般の方がマスクを着用することの効果はほとんどないとしていますので気休め程度と考えてください。

うがいや鼻うがい、口腔洗浄には予防効果は認められていません。自然宿主動物はまだ不明ですので野生動物との接触は避け、肉や卵は良く加熱してください。家庭用の空気清浄

¹ Huijun Chen, Juanjuan Guo, Chen Wang, Fan Luo, Xuechen Yu, Wei Zhang, Jiafu Li, Dongchi Zhao, Dan Xu, Qing Gong, Jing Liao, Huixia Yang, Wei Hou, Yuanzhen Zhang. Clinical characteristics and intrauterine vertical transmission potential of COVID-19 infection in nine pregnant women: a retrospective review of medical records. The Lancet DOI:[https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30360-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30360-3)

機やニンク、ゴマ油、ラベンダーなど特定の食べ物やサプリメントによる予防は有効性が確認されていません。現時点では予防接種はありません。

新型コロナウイルス感染が心配なときは

2020年2月11日の時点では、日本国内で大規模な二次感染、三次感染は発生しておらず、死亡例も発生していません。ご本人や家族が中国から帰国（来日）した、あるいは身近に確定診断された患者さんがいるという場合以外は、新型コロナウイルス感染の可能性は低いと思われます。むしろインフルエンザやマイコプラズマなど他の病原体が原因の肺炎にかかる可能性の方が高いのですが、症状だけでは区別が付きません。新型コロナウイルス感染を確定するには、医療機関を受診してウイルス遺伝子を検出する方法で診断を受けることが必要です。しかしインフルエンザのようにその場では結果が出ず、また感染症診療に対応できない病院・医院もありますので、**来院前に受診先と保健所に電話でご相談ください**。2月1日に前倒し施行された感染症法の特定感染症に指定されていますので適切な医療機関を紹介することができます。仮に新型コロナウイルス感染であっても、現時点での死亡率はSARSやMERSよりもはるかに低く、患者さんが多い中国でも、現時点では妊婦さんの死亡報告はありませんので過剰な心配は不要です。しかし、一般的に妊婦さんの肺炎はご本人が重症化するのみならず、胎児に影響する恐れもありますので、母児の健康を守るためには適切な治療と対応が必要です。我々産婦人科医はお母さんと赤ちゃんを守る立場で、適切にサポートいたします。武漢では出生後間もないお子さんの感染があったことから、子宮内感染ではないかという報道がありますが現時点では確認が取れていません。ただ、SARSやMERS流行時には初期の感染で流産が、中後期の感染で早産や胎児発育遅延が報告されていますので感染しないようにするのがもっとも重要です。

感冒様症状があるときは市販の感冒薬や漢方薬などを服用しても構いませんが、医師や薬剤師に相談してください。抗菌薬（抗生物質）は無効であるばかりか耐性菌を誘導する可能性がありますので、万一新型コロナウイルスに感染した時に混合感染による細菌性肺炎の治療が上手くできなくなる可能性があります。自己判断で服用するのは避けてください。

情報の収集について

感染症流行時には様々なデマが発生します。特にTwitterなどのSNSにより不確かな情報が拡散しがちですが、政府や国際機関、感染症を専門とする学会のホームページなど信頼できる情報をもとに行動してください。情報は随時アップデートします。

1. 厚生労働省：新型コロナウイルスに関するQ&A（英語、中国語、韓国語対応あり）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_0001.html
2. 国立感染症研究所：コロナウイルスとは

- <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/9303-coronavirus.html>
3. 国立感染症研究所：感染症疫学センター
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>
 4. CDC（英語：English）
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/guidance-hep.html>
 5. 日本感染症学会：新型コロナウイルス感染症
http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31
 6. 公益社団法人 日本産婦人科医会
<https://www.jaog.or.jp>

無断引用・転載を禁じます。引用・転載は原則として本学会員に限ります。また、引用・転載時には本学会の許諾を得てください。

日本産婦人科感染症学会

文責

早川 智，相澤（小峯）志保子（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）